

# 木知原の今昔!

木知原のあゆみ

34号:6・3・8

No.7

失敗のシリーズですがあと2~3枚あります。よろしく。

## エッ! 木知原からも“農民兵”が!!

《自作年表》

☞ 応仁の乱以降は日本各地で豪族間の勢力争いが100年以上続いた。

△ 美濃地方は土岐・斎藤・織田に加え西美濃三人衆(稲葉・安藤・氏家)が複雑に絡み合い木知原もその争乱に巻き込まれたと思う。《身近に起きた主な戦》

時代	年
室町時代の世	1467
	1517
	1552
	1556
	1567
	1573
安土桃山時代の世	1580
	1582
	1582
江戸時代	1603

✂ 土岐守護家の内乱(1517~1530) 《美濃戦国の世の始まり》

☞ 兄弟間での守護職家督争いが美濃地方全土に広がり10年以上続いた。

♥ 木知原の領主安藤守就(もりなり)は兄頼武(よりのり)に与していたから当然・・

✂ 斎藤道三が土岐頼芸(よりのり)を追放(1552) 《主君を討つ》

☞ 道三が主君(土岐頼芸)を追放して美濃のボスに君臨する。

♥ 木知原の領主安藤は頼芸に与していたが土岐家没落後道三の家臣となる。当世は領主が誰に仕えようが村人のくらしが大きく変わることはなかった?



✂ 長良川の戦い:[父道三 vs 子義龍(よしたつ)] (1556) 《親子の戦い》

☞ 斎藤道三(鷲山城主)が子義龍(稲葉城主)と覇権争い。道三自刃(じじん)

♥ 領主安藤は道三の家臣であったが寝返って義龍(よしたつ)に味方したので、木知原も領主の寝返り指示に従うしかなかったと思う。



✂ 織田信長の美濃攻め (1567) 《西美濃三人衆の寝返り》

☞ 信長が稲葉山城主の斎藤龍興(たつおき)を攻め落とし岐阜城と改名した。

♥ 領主安藤はまた寝返って信長側に与したため木知原も再度の寝返りで参戦・・

✂ 織田信長北方城主を追放 (1580) 《家臣追放》

☞ 信長は安藤守就の嫡男が武田と通じていたとの理由で北方城から追放した。

♥ 村人は訳がわからないうちに領主が曾根城主(稲葉一徹)に替わった? そんな時代

✂ 北方城の戦い (1582) 《三人衆仲間割れ》

☞ 安藤守就が北方城を取り戻すためにかつての仲間であった稲葉一徹と戦った。

♥ “どうなってる?”と不安と恐怖の中で領主に翻弄された木知原だったでしょう。。

戦国の世は家臣も寝返る下剋上 家臣の家臣は家臣でない



☹ 上記のように60年間、戦に明け暮れている間に時代は室町から安土桃山時代へ...そこに突然の本能寺の変(1582)。信長が自刃し天下は秀吉の世へと移った。

## 👉 木知原は曾根城主の支配下が続く

📌 木知原が上記の争いにどの様に関わったかは不明であるが徴兵や雑徭・増税などで苦しい時代であったことは確かと思う。

📌 木知原は北方城主(安藤)が追放された後は、大垣の曾根城主「稲葉一徹や西尾光敏」による支配が関ヶ原の戦いを経て江戸時代まで続いた。

📌 一徹は北方城の戦い後も信長に従事して多くの戦いに参戦し80戦80勝の名将ぶりを発揮した。  
・光敏は関ヶ原で東軍(徳川)につき大垣城の戦いで戦功をあげ揖斐城主となっている。完



📌 曾根城は稲葉一徹が永禄年間築城。  
・場所は大垣市曾根町(現在は曾根城公園)